

## 平成24年度事業計画

### <公益財団法人への移行後の電通育英会の事業目的の再確認（定款第3条より）>

公益財団法人電通育英会は、優秀でありながら経済的な理由により修学が困難な、日本国内で学ぶ大学生・大学院生に対する奨学金の貸与・給付及び留学生に対する奨学金の給付を行うとともに、育英に関する調査研究・情報提供、大学生等を対象とした人材育成活動に対する助成事業を行い、もって社会を牽引する人材を育成することを目的とする。

### 平成24年度事業計画の前年度との主な変更点

- 1) 大学給付奨学生（高校予約）に対するキャリア形成支援の一環として、当財団の大学給付奨学生を対象とした新しい「大学院奨学金制度」を計画いたします。
- 2) 上記1)との関連で、従来 of 大学院奨学金制度の募集・予約選考を平成24年度から中止することを計画いたします。

平成23年度・24年度採用の大学院奨学生に対する奨学金の支給及びセミナーなどキャリア形成支援は、修了まで継続します。

- 3) 大学院奨学生を対象とした夏期セミナーと冬期セミナーのうち、冬期セミナーを中止します。代わりに、「奨学生の集い」に、大学院奨学生にも参加してもらいます。
- 4) 平成23年度資産運用委員会による審議を経て、「平成24年度資産運用方針」を策定しました。平成24年度は、12月に理事会を開催し、資産運用についての実績報告と意見交換をお願いする予定です。

- \* 当財団は、昭和38年（1963年）3月18日に設立されました。平成25年（2013年）3月に設立50周年を迎えます。

平成25年4月以降に、奨学生全員が一堂に会する「財団設立50周年記念 奨学生の集い」を東京で開催する計画です。内容は、講演会と懇親会で構成します。この会には、理事・監事・評議員をはじめ、顧問、選考委員、資産運用委員、電通関係者、事務局OBOGなどもご招待して、奨学生とともに財団設立50周年を祝うことを計画しています。

## 1-1. 大学生への奨学金支給事業 <公益事業1>

### (1) 大学生への奨学金貸与

平成 22 年度から貸与奨学生の募集・採用を中止した関係で、24 年度の貸与奨学生は、学部 4 年生が 48 名、医薬系大学の 5・6 年生が 26 名、計 74 名となります。

在学中の貸与奨学生全員が受給期間満了するまでは、奨学金貸与事業を継続します。

\*貸与奨学生を対象とした返還免除奨学金事業及び留学奨励金事業も継続します。

24 年度予算：	(奨学金貸与)	35,520,000 円	@48 万円×74 名
	(23 年度予算)	84,960,000 円	@48 万円×177 名

### (2) 一般大学生への奨学金給付（高校時予約採用）

平成 24 年度の大学進学予定者に対して、奨学金給付の募集を平成 23 年 6 月に行ない、平成 23 年 7 月の選考委員会で 51 名が内定しました。内定者のうち、平成 24 年 4 月に当財団指定の大学に入学した者に対し、奨学金を給付します。

21 年度から採用を開始し、24 年度には 1 年生から 4 年生までが揃うこととなります。

24 年度の採用は 57 名を想定します。給付者総数は、21 年度 50 名、22 年度 88 名、23 年度 143 名と推移し、24 年度には約 200 名（想定）となります。

平成 25 年度の大学入学予定者に対して、平成 24 年度も下記の通り募集・予約選考作業を行います。

①給付対象：当財団が指定する公立高等学校の 3 年生で、在学学校長の推薦がある者。成績優秀者かつ学費の援助が必要と認められる者で、当財団指定大学への入学を条件とする。理工学系、医薬系を除く。

②給付金額：月額 50,000 円、期間は大学在学中の最長 4 年間。

③予約採用者数：年間 50 名前後。

④採用方法：奨学金給付者は、主要国立大学進学者数ランキング上位の公立高校（全国約 125 校）より各 1 名推薦された候補者の中から、選考委員会での書類選考後、選考委員による面接選考を経て理事長が決定する。なお 25 年度進学予定の大学給付奨学生については、9 月に予約採用内定を通知する予定。

⑤初年度指定大学不合格の場合、次年度の再受験を認める。（所謂「一浪」まで可）。

24 年度予算：	(一般大学生給付奨学金)	120,000,000 円	@60 万円×200 名
	(23 年度予算)	82,800,000 円	@60 万円×138 名

### (3) 芸術系大学生への奨学金給付(高校時予約採用)

当財団の特色を出すための制度で、平成 23 年度入学から奨学金支給を開始しました。平成 24 年度の芸術系大学・学部入学者に対して、奨学金を支給します。24 年度の採用は 5 名を想定します。給付者総数は、23 年度 5 名、24 年度 10 名(想定)となります。平成 25 年度の芸術系の大学・学部入学予定者に対して、平成 24 年度も下記の通り予約選考作業を行います。

- ①給付対象：当財団が指定する公立高校の 3 年生で、在学学校長の推薦がある者。成績優秀かつ学費の援助が必要と認められる者で、当財団指定の芸術系の大学・学部への入学を条件とする。
- ②給付金額：月額 50,000 円、期間は大学在学中の最長 4 年間。
- ③予約採用者数：年間 10 名を限度とする。
- ④採用方法：「(2) 一般大学生 への奨学金給付」と同様。
- ⑤初年度指定大学不合格の場合は次年度の再受験を認める。(所謂「一浪」まで可)。

24 年度予算：	(芸術系大学生給付奨学金)	6,000,000 円	@60 万円×10 名
	(23 年度予算)	5,400,000 円	@60 万円×9 名

### (4) 震災支援枠の大学生への奨学金給付(高校時予約採用)

平成 23 年 3 月 11 日の東日本大震災で被災した者を対象とした奨学金制度です。平成 24 年度の大学進学予定者に対して、奨学金給付の募集を平成 23 年 6 月に行ない、平成 23 年 7 月の選考委員会で 4 名が内定しました。当該内定者のうち、平成 24 年 4 月に当財団指定の大学に入学した者に対し、新たに入学一時金と奨学金を給付します。平成 25 年度の大学進学予定者に対して、平成 24 年度も予約選考作業を行います。

- ①給付対象：当財団が指定する公立高校の 3 年生で、東日本大震災で被災した者。成績優秀かつ学費の援助が必要と認められる者で、当財団指定の大学への入学を条件とする。
- ②給付金額：入学一時金 300,000 円のほか、月額 50,000 円、期間は最長 4 年間。
- ③予約採用者数：年間 10 名以内とする。
- ④採用方法：「(2) 一般大学生 への奨学金給付」と同様。
- ⑤初年度指定大学不合格の場合は次年度の再受験を認める。(所謂「一浪」まで可)。

24 年度予算：	(震災支援枠大学生給付奨学金)	3,600,000 円	@90 万円×4 名
	(23 年度予算)	—	—

\* ただし、平成 23 年 6 月の理事会で決議された「特定費用準備資金」からの支出となります。平成 24 年度から 26 年度までの 3 年間の採用を予定しています。

#### (5) 留学奨励金の給付

平成 22 年度から貸与奨学生の募集・採用を中止した関係で、24 年度の貸与奨学生は学部 4 年生が 48 名、医薬系の 5 年生・6 年生が 26 名残るだけとなりますので、平成 24 年度には、留学奨励金への応募者はいないことが想定されます。

24 年度予算：	(留学奨励金)	—
	(23 年度予算)	2,000,000 円

#### (6) 成績優秀による奨学金返還免除

平成 25 年 3 月卒業予定の貸与奨学生の中から、成績優秀者およびその他スポーツ・文化領域等において顕著な成績を収めた者を選び、奨学金の返還免除の特典を与えます。

- ①給付対象：卒業予定の貸与奨学生で成績優秀者等
- ②免除金額：貸与した奨学金全額（卒業時に返還免除）
- ③採用者数：10 名程度 \*卒業予定者は 50 名
- ④採用方法：成績優秀による奨学金返還免除者は、選考委員会で書類審査をした後、選考委員による面接を経て理事長が決定する。

24 年度予算：	(返還免除費用)	22,000,000 円
	(23 年度予算)	30,000,000 円

### 1-2 大学院生への奨学金給付事業 <公益事業 1>

#### 大学院奨学金制度の企画変更

平成 18 年から採用を開始した大学院奨学金制度を変更します。

従来は、27 の指定大学から推薦された大学院生を選考の上採用してまいりましたが、大学給付奨学生（一般・芸術系および震災支援枠）に限られた原資を集中する目的で、大学院奨学生の対象を、この大学給付奨学生に限定する制度に変更します。従来方式の募集・予約選考は、平成 24 年度から中止します。

ただし、23 年度に採用した大学院奨学生（25 名）および 23 年度に予約選考した大学院奨学生（24 名）の計 49 名に対する奨学金給付は、修士課程修了まで続行します。

平成 18 年度から採用を開始して、平成 24 年度までに採用した大学院奨学生（国内）は、累計で 170 名となります。

### (1) 大学院生（学部予約）への奨学金給付

平成 24 年度の大学院進学予定者に対して、奨学金給付の募集を平成 23 年度に行ない、選考委員会で 24 名を採用内定としました。このうち、平成 24 年 4 月に当財団指定の大学院に入学した者に対し、大学院修士課程 2 年間、月額 8 万円の奨学金を給付します。給付者総数は、平成 23 年度採用者と合わせて 49 名となります。

平成 25 年度の大学院進学予定者については、募集対象を当財団の大学給付奨学生に限定して、下記の通り行います。

- ①給付対象 : ・当財団の大学給付奨学生であること  
・キャリア形成上、修士課程への進学に必然性が認められる者  
・成績優秀で、かつ学費の援助が必要と認められる者
- ②給付金額・期間 : 月額 80,000 円、給付期間は 2 年以内とする
- ③予約採用者数 : 10 名以内

24 年度予算 :	(大学院生奨学金)	47,040,000 円	@96 万円×49 名
	(23 年度予算)	47,040,000 円	@96 万円×49 名

### (2) 大学院留学生（現地採用）への奨学金給付

平成 22 年度から、現地採用方式に切り替えました。中国については、中国教育部の協力を得て『中国建設高水準大学国家派遣留学生事業』の採用者の中から、韓国については、ソウル大学校及び延世大学校と協約を締結し、当財団の応募条件に合致する博士課程ないし修士課程留学予定者の中から、推薦を受けます。選考委員会を経て理事長が決定します。

なお、大学院博士課程ないし修士課程留学予定者に対して、平成 24 年度も下記の通り選考作業を行います。

- ①給付対象 : ・日本国内の主要大学院（修士・博士課程）に留学する者  
・原則として社会・人文科学を専攻する者  
・日本語によるコミュニケーションに支障のない者
- ②給付金額・期間 : 月額 160,000 円、給付期間は 3 年以内とする
- ③採用人員 : 7 名以内（中国人留学生 5 名、韓国人留学生 2 名）
- ④採用時期 : 中国・韓国とも、毎年度 4 月ないし 10 月からの採用。

\* 24 年度の 4 月採用はありませんでしたので、全員 10 月採用を想定

24 年度予算 :	(留学生奨学金)	24,000,000 円	@192×9 名+@96×7 名
	(23 年度予算)	16,320,000 円	

<参考>今後4年間の奨学生数の推移

	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
大学貸与奨学生	<b>継続</b> 4年生以上 74名	<b>継続</b> 医薬系5年6年生 23名	<b>最終年</b> 医薬系6年生 10名	
大学貸与奨学生対象の 返還免除	<b>縮小継続</b> 卒業予定 50名 →10名程度	<b>縮小継続</b> 修了予定 13名 →若干名	<b>最終年</b> 修了予定 10名 →若干名	
大学給付奨学生（一般） 〈高校予約〉	<b>4年目</b> 1年生～4年生 200名	<b>5年目</b> 1年生～4年生 200名	<b>6年目</b> 1年生～4年生 210名	<b>7年目</b> 1年生～4年生 200名
大学給付奨学生（芸術） 〈高校予約〉	<b>2年目</b> 1年生と2年生 10名	<b>3年目</b> 1年生～3年生 18名	<b>4年目</b> 1年生～4年生 25名	<b>5年目</b> 1年生～4年生 28名
大学給付奨学生（震災支援） 〈高校予約〉	<b>1年目</b> 1年生のみ 4名	<b>2年目</b> 1年生と2年生 12名	<b>3年目</b> 1年生～3年生 20名	<b>4年目</b> 2年生～4年生 20名
大学院給付奨学生 （学部予約）	<b>7年目</b> 1年生と2年生 49名	<b>8年目（最終）</b> 2年生のみ 24名		
大学院給付奨学生 （大学給付奨学生対象）	<b>予約選考のみ</b>	<b>1年目</b> 1年生のみ 10名以内	<b>2年目</b> 1年生と2年生 20名以内	<b>3年目</b> 1年生と2年生 20名以内
大学院給付留学奨学生 （現地予約） * 3月末時点	<b>3年目</b> 中国13名 韓国3名 計16名	<b>4年目</b> 中国15名 韓国5名 計20名	<b>5年目</b> 中国15名 韓国6名 計21名	<b>6年目</b> 中国15名 韓国6名 計21名

## 2. 奨学生対象のセミナー等の実施 <公益事業1>

### (1) 大学奨学生（貸与及び給付）に対する「奨学生の集い」の実施

奨学生の研修及び奨学生間の交流、選考委員との交流を目的とする「奨学生の集い」を、東京・大阪の2地区で開催します。開催時期は11月を予定。

平成24年度から大学院奨学生にも「奨学生の集い」について原則参加としました。

「奨学生の集い」では、各界で活躍する講師を招き講演会を開いています。平成23年度の講師は、東京会場・大阪会場とも人材活性プロデューサーの大谷由里子氏でした。

平成24年度も、学生のキャリア形成に参考となるテーマと講師を選びます。

24年度予算： (奨学生の集い関連費用) 6,310,000円 \*奨学生の交通費含む  
(23年度予算) 6,360,000円

### (2) 大学給付奨学生に対するセミナーの実施

大学給付奨学生の1年生から3年生に対して、研修セミナー出席を義務付けています。汎用的スキルの涵養や課題解決力の付与などを目的にグループ討議、プレゼン演習等を行い、次世代人材を育成する一助とします。9月に1泊2日の合宿形態で実施します。

1年生対象：ロジカルコミュニケーション研修

2年生対象：課題解決力養成研修

3年生対象：自己分析とキャリアデザイン研修

\* 4年生は、3月に開催する「修了懇親会」への全員参加をもって代替します。

24年度予算： (大学生セミナー関連費) 8,085,000円 \*奨学生の交通費含む  
(23年度予算) 8,230,000円

### (3) 大学院奨学生に対するセミナーの実施

大学院奨学生および大学院留学奨学生に対して、平成23年度までは夏期と冬期の年2回のセミナーへの出席を義務付けていましたが、平成24年度から冬期セミナーを上記「奨学生の集い」と統合し、大学院生対象のセミナーは夏期だけの年1回といたします。夏期セミナーは1泊2日の合宿形態で実施します。内容は、奨学生の研究発表、各界講師による講演会、グループ討議、懇親会で構成します。23年度の講師は、名古屋大学准教授の近田政博氏（夏）、野村総研の柴山慎一氏（冬）でした。

24年度予算： (大学院生セミナー関連費) 3,700,000円 \*奨学生の交通費含む  
(23年度予算) 6,815,000円

#### (4) 修了懇親会

卒業予定の大学貸与奨学生のうち「成績優秀による返還免除者」及び大学院修了生に加えて、平成 24 年度から卒業予定の大学給付奨学生も対象とします。奨学生の修了・卒業後の各界での活躍を祈念して、当財団の選考委員、主要奨学財団、大学関係者など来賓出席のもと、「修了懇親会」を3月に東京で開催します。

なお、修了生有志によって編集された「研究報告集」を出席者に配布します。

24 年度予算： (修了生懇親会関連費) 5,140,000 円 \*修了生の交通費含む  
(23 年度予算) 3,435,000 円

<参考> 奨学金事業別の平成 24 年度予算額 (概算) 合計：2 億 5059 万円

	大学生給付	大学院給付	留学生給付	大学生貸与
奨学生数	210 名	49 名	16 名	74 名 *返還免除 10 名
奨学金支給額	1 億 2600 万円	4704 万円	2400 万円	返還免除 2200 万円
募集・採用関連	492 万円	40 万円	180 万円	24 万円
セミナー関連*1	808 万円	276 万円	94 万円	
奨学生の集い*2	440 万円	105 万円	32 万円	54 万円
修了懇親会 *3	284 万円	143 万円	29 万円	58 万円
小計	1 億 4624 万円	5268 万円	2735 万円	2336 万円
	@70 万円	@108 万円	@171 万円	

\*1~\*3 セミナー等の費用は、大学生と大学院生と留学生の参加想定人数で配分



### 3. 大学教育における人材育成に役立つ調査データ・情報の提供 <公益事業1>

#### (1) 機関誌「IKUEI NEWS」の発行（年4回）

平成23年度は、シリーズ特集テーマを「自分を育てる学生生活の過ごし方」とし、4月号「共同生活で学ぶ他者への配慮」、7月号「社会との接点・地域交流に学ぶ」、1月号「インターンシップを考える」を特集しました。10月号では、23年8月に京都大学・東京大学と共同開催した『大学生研究フォーラム』を特集し、いずれのテーマについても、大学教職員やキャリア教育の研究者へのインタビューと大学生の意見や感想を取材しました。

24年度も、大学生のキャリア形成や大学生活を中心に、現場情報を大学生及び大学教職員に対し提供していきます。また「大学を訪ねて」、「先輩！こんにちは」、「アメリカン・キャンパス・ライフ」等の連載企画は継続する予定です。

主要読者層は貸与/給付中の奨学生、奨学金返還中のOBOG、大学関係者（学長室及び学生部）、教育関係者、奨学財団、全国主要図書館、全国の新聞社であり、新たに大学・高校関係者等、配布先を増やしていきます。部数は、「大学生研究フォーラム」参加者等から毎年30名前後の定期送付希望者があるなど増加傾向で、24年度は各号約4,000部を見込みます。

24年度予算：	（機関誌関連費）	25,100,000円
	（23年度予算）	23,700,000円

#### (2) 調査研究

平成24年度は、京都大学（溝上研究室）・東京大学（中原研究室）との共同により、「トランジション研究調査」を行います。全国の民間企業に働く25歳～39歳のビジネスパーソンを対象に、仕事に取り組む意識と実態、および大学生活の過ごし方などを定量的に把握し、大学生活の過ごし方が企業に就職した後の仕事に取り組む意識および実態にどのような影響を与えるかを浮き彫りにします。調査は（株）マクロミルに依頼し、インターネット調査を実施します。（回収3000サンプル以上）

この調査から得られた知見は、当財団の事業企画の参考情報とすると同時に、8月開催の「大学生研究フォーラム」で、溝上先生・中原先生から報告いたします。

また、調査レポートは「電通育英会設立50周年記念」事業の一環として、新聞社へのリリース及び高等教育関係者に対する参考情報としてデータ提供します。

24年度予算：	（調査関連費）	8,080,000円
	（23年度予算）	2,500,000円

### (3) 大学生研究フォーラムの開催

大学生意識調査の結果など大学生研究成果の情報発信の場として、また大学生研究の課題発見のための場として、過去4年間毎年開催してまいりました。23年度(第4回)は、京都大学・高等教育研究開発推進センターに加えて東京大学・大学総合教育研究センターとの3者共催で、8月に京都大学にて、教育学・心理学・青年若者論等の教員、研究者及び学生を集めたシンポジウムを開催しました。

平成24年度のシンポジウムも上記の3者共同開催で、「グローバルキャリアの時代に大学教育は何ができるか」というテーマのもと、前記「トランジション研究調査」から得られた知見の報告、パネルディスカッション、情報交換会で構成します。

また、23年度にテスト的に実施した「高校教諭のためのシンポジウム」も併催いたします。

フォーラムの報告内容や議論内容などは、IKUEI NEWS 10月号にて、特集します。同時にホームページにも掲載する予定です。

24年度予算：	(フォーラム関連費) 7,850,000円
	(23年度予算) 8,000,000円

#### 4. 大学生等の人材育成に取り組んでいる非営利組織への資金助成 <公益事業2>

学生の人材育成を目的として、インターンシップ、ボランティア活動、その他セミナー活動などを行っている大学内組織や民間 NPO 団体を主な対象として、活動計画を広く募集し、有識者・専門家によって構成される選考委員会にて書類選考・面接選考を行った上で、平成 24 年度は、応募総数 33 件から選考された以下の 11 団体による人材育成活動に対して、資金助成をいたします。

##### <選考基準>

大学生等の人材育成効果に加えて①応募団体の過去の活動実績 ②活動の目的・有用性 ③実施計画の妥当性 ④計画遂行力 など、総合的に評価する。

##### <大学内組織、NPO による大学生等のキャリア形成支援活動（24 年度 採択）>

###### （助成金額 100 万円）6 件

- ・ 明治学院大学ボランティアセンター 東日本大震災復興支援活動の成果をフォーラムや報告書によって公表する活動
- ・ NPO アクションポート横浜 地域密着型のインターンシップ事業
- ・ NPO 3 Keys 学び場づくりプロジェクト in 児童養護施設（教育支援活動）
- ・ NPO 16 歳の仕事塾 社会人講師による高等学校での出前授業を通じた高校生のキャリア教育支援活動
- ・ NPO コトモ・カモノまち ing 大学生に里山キャンプを体験させることで、感じる力などを身に付ける人材育成活動
- ・ NPO スマイルクラブ 障がい者のための大学生スポーツボランティア養成モデル事業

###### （助成金額 50 万円）5 件

- ・ NPO 勉強リストソうなんだ 知的障がい者を対象とした発見教室の企画運営を通じた大学生人材育成事業
- ・ NPO キッズドア 教育での社会貢献に取り組む学生ボランティアのリーダー育成事業
- ・ NPO POSSE 生活困窮者支援ボランティアを通じた大学生人材育成事業
- ・ NPO 非行克服支援センター 非行少年に対する若者ボランティア支援者養成講座
- ・ NPO 環境持続研究センター 大学生の政策提言能力向上のための実践的研修およびインターンシップ事業

##### <24 年度活動計画>

**募 集:**10月に、若者対象の人材育成活動、キャリア支援活動を行う首都圏(東京・神奈川・千葉・埼玉)の非営利組織に対して、募集要項を送付。同時にホームページにも募集要項を掲載。1月初旬が応募締切。

**選 考:**2月に、有識者、若者・キャリア・NPO の専門家5名で構成される選考委員会にて書類審査を行い、その後、活動計画のプレゼンを受けたのち非営利組織が取り組む人材育成活動に対して、100万円コース5件程度、50万円コース5件程度を採択する。

24 年度予算： (人材育成活動助成事業関連費) 10,420,000 円  
(23 年度予算) 6,000,000 円

平成 24 年度主要行事 年間日程 予定表

	日 程	場 所
第 4 回理事会（決算）	6 月 12 日（火）	帝国ホテル
第 2 回評議員会	6 月 26 日（火）	帝国ホテル
大学院生 夏期セミナー	8 月 11 日（土）～12 日（日）	クロスウエーブ幕張
大学生研究フォーラム	8 月 19 日（日）	京都大学 125 周年記念ホール
（併催）高校教諭シンポジウム	8 月 20 日（月）	京都大学 125 周年記念ホール
大学生セミナー	9 月 15 日（土）～16 日（日）	湘南国際村研修センター
奨学生の集い（東京）	11 月	電通ホール（予定）
奨学生の集い（大阪）	11 月	電通関西支社ホール（予定）
第 5 回理事会（資産運用）	12 月 7 日（金）予定	帝国ホテル（予定）
第 6 回理事会（予算）	3 月	帝国ホテル（予定）
修了懇親会	3 月	品川ストリングスホテル（予定）